

指 導 資 料

鹿児島県総合教育センター

特別活動 第15号

— 小, 中, 盲・聾・養護学校対象 —
平成13年9月発行

ガイダンスの機能の充実 - 学級活動等の実践例を通して -

今回の改訂では、中学校総則で、「生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校教育全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」が示された。また、これを受けて、特別活動でも「学校生活への適応や人間関係の形成、選択教科や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう学級活動等の指導を工夫すること」と述べられている。小学校でも、特別活動改訂の基本方針の中に、「ガイダンスの機能の充実などを重視する観点から内容の改善を図ること」が提示されている。

1 背景

「ガイダンスの機能の充実」が提示された背景として次のようなことが挙げられる。第一に、学校や学級生活に十分適応することのできないなどの理由から、学習への意欲を失ったり、人間関係にかかわる問題を抱えたり、あるいは不登校の状態に陥ったりする児童生徒が見られること。

第二に、学習における選択や進路の選択

に当たって、適切に対応できずに、自分を見失いがちな児童生徒も見られること。

このような中で、学校生活への適応や人間関係の形成に向けて、個別的なカウンセリングとともに、学年や学級集団等における多面的・多角的な指導・援助がこれまで以上に必要となってきた。また、児童生徒一人一人が目的意識をもち、主体的に選択し自己形成を進めていくための適切な情報提供や案内・説明、活動体験などの指導・援助も求められている。

2 ガイダンスの機能の充実

(1) ガイダンスの機能とは

ア 中学校では、「学習指導要領解説 - 特別活動編 - 」に次のように示されている。

ガイダンスとは、生徒のよりよい適応や選択にかかわる、集団場面を中心とする指導・援助であり、生徒一人一人を最大限に開発しようとする事。

具体的には、生徒の学級・学校生活

への適応や好ましい人間関係の形成、学業や進路等における選択及び自己の生き方などに関して、学校が計画的、組織的に行う、情報提供や案内、説明及びそれらに基づいて行われる学習や活動などである。

イ 小学校では、「学習指導要領解説 - 特別活動編 - 」でガイダンスの機能の充実を重視する観点から内容の改善を図るために以下のように示されている。

児童が自ら、現在及び将来の生活や学習によりよく適応し、自己を生かそうとする生活態度を育てるために、自分への気付きや自己決定を促す適切な情報・資料を提供するとともに、心の健康を増進し、健全な人間関係を醸成すること。

(2) 充実を図る活動内容

ア 小学校での活動内容

日常生活や学習への適応及び健康や安全 [内容(2)] に関する内容として、次のものが挙げられる。

- ・希望や目標をもって生きる態度の形成
- ・望ましい人間関係の育成 など

イ 中学校での活動内容

学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択 [内容(3)] に関する内容として、次のものが挙げられる。

- ・学校生活への適応や人間関係の形成
- ・選択教科や進路の選択

(3) 充実を図る工夫

- ・ガイダンスの個々の活動について、ねらいをもち、その実現のために、これまでよりも適時に、適切な場を設け、より

よい内容・方法で実施するよう改善を図ること。

- ・ そのための計画を立て、教師の共通理解と協力により、その効果を高めるようにすること。

例えば、入学時や新学期といった学校生活や学年の新しい生活において、次のようにして充実を図ることが考えられる。

ア ねらいをもち。

ねらい：学校や学級への適応を図ること。

イ 適時に適切な場を設ける。

活動の場面：学級活動、学校行事等の時間だけではなく、朝の会、帰りの会でも適宜行うこと。

ウ よりよい内容や方法で実施する。

内容、方法：教師の一方的な説明だけに終わるのではなく、児童生徒によるロールプレイングを行ったり、グループワークを行ったりしながら、児童生徒同士が触れ合うことのできる機会を多くもつこと。

このことを踏まえてガイダンスの機能の充実を図るために小学校における活動例や中学校の実践を以下述べていく。

3 小学校における活動例

希望や目標をもって生きる態度の育成をねらいとしたガイダンスの活動例を述べる

(1) 題材「6年 組の学級目標を決めよう。」

(2) 目標

最高学年としての自覚をもち、積極的に自らの学級づくりに取り組むことを通して協力して学級生活の向上を図る態度

を養う。

(3) 指導上の留意点

- ・ 事前調査を十分に行い，児童の願いを確認した上で話し合わせる。
- ・ 集団決定したものと個人との関連を明確にする。
- ・ 学級目標と日常生活との関連を十分に確認させる。

(4) 活動の展開

過程	主な学習活動	
	(主な指導と援助)	子どもの反応等
共有化 10分 ↓ 活動の展開 20分	1	学級目標の決め方を確認する。
	2	学年目標に関する学級の様子を知る。 (学習態度，生活態度，健康の様子を確かめさせることで，学級に合う内容を考えさせる。)
	3	学年目標に対する学級目標を話し合う。 知，徳，体についてそれぞれの目標を決めよう。 (グループごとにブレインストーミングを使って，それぞれの項目について自由に意見を引き出す。)
		・ 集中して学習する，明るくはきはき，学級対抗で勝ちたい，実行力，男女仲良く，元気いっぱい など (出された学級目標の中のどの目標に重点を置くのか，構成的グループエンカウンターで十分に話し合わせて，その優先順位から学級全体の目標を決めさせる。)
		知・・・計画を立て，進んで学習する。 徳・・・男女仲良くする。 体・・・最後まで頑張り，体を鍛える。
	4	1日の生活の中でどのように学

級目標に取り組んでいくか話し合う。

(取組方について話し合い，実践への見通しをもたせる。必要に応じて教師が助言する。)

・ 朝の会，帰りの会で確かめ合う，学級日誌に記録する，毎月末にアンケートをとる など

5 自分の目標を学級目標と照らし合わせながら決める。

・ 宿題を忘れない，漢字を覚える，みんなと遊ぶ，一日一善，一日縄跳び200回 など

(子どもたちの目標をカードに書かせた後，一人一人発表させる。学級設営にこの目標を書いたカードをすべて提示することを知らせることで，1年間の個人目標を意識させる。)

6 教師のまとめを聞く。

7 感想を書く。

実践

15分

4 中学校における実践例

人間関係の形成や進路選択をねらいとしたガイダンスの実践例を述べる。

(1) 題材「将来の進路計画を立てよう。」
(中学2年生)

(2) 目標
他の多くの人々の意見を取り入れていこうとすることで，自己理解がさらに深まることに気付かせ，自分の進路計画を立案していこうとする意欲を喚起させる。

(3) 指導上の工夫(抜粋)

- ・ 大人の気持ちと考え，生徒の気持ちと考えとの相違点を明確にしながら話し合いを進めるために，保護者の学級活

動への参加を計画した。

- ・ 他の人の共感的な態度を感じ、自ら率直に表現しようとする態度を育成するために構成的グループ・エンカウンターを実施した。
- ・ 他の人の気持ちや考えを共有させ、他の人への理解を深めるために、自然な会話を使い、ロールプレイングを行った。

- ・ あらかじめ、保護者がわが子に何を願い、期待しているかを「保護者から見た子どもカード」に、その逆を「私から見た保護者カード」に書いてもらい、授業の始まる前に、生徒は自分の保護者が書いたカードを探し、保護者も同様に自分の子どもが書いたカードを探し出させて、和やかな雰囲気をつくった。

(4) 活動の展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等	主な指導と援助
共有化 10分	1 アンケート結果を見て問題点を把握し、活動のテーマを知る。 (活動テーマ) 進路計画を立てるときに必要なことを考えよう。	生徒と保護者との認識の違いにより、お互いの意志の疎通がうまくいっていなかったり、表面的であったりしている場合があることや、自分自身の意志決定ではない進路選択をしている生徒がいることを、アンケート結果を使って示す。そして、保護者と自分たちとの考えの違いから、どのように進路計画を立ていけばよいかを活動テーマにする。
活動の展開 35分	2 ロールプレイングを見て、自分がなりたい職業(夢)を決めるときに大切にしたいもの考える。 ・高収入の職業 ・自分の特技を生かせる職業 ・ゆとりをもってできる職業 ・終身雇用の職業 ・自分の趣味を生かせる職業	生徒5人に、どんな職業に就きたいのか、それぞれの立場で普段の会話を取り入れたロールプレイングを演じさせる。他の生徒は、自分と置き換えて、どの意見を大切にするのか、その理由も考えさせる。 (進路選択に関する工夫：ロールプレイング)
実践への意欲化 5分	3 保護者も交えて構成的グループ・エンカウンター「何を優先して職業を選択するのか？」を行う。 (1) 「大切にしたい考え方」に自分なりに順位をつける。 (2) 個人の考えた順位を保護者も交えたグループで順番に発表し、グループの集計用紙にそれぞれ全員分を記入する。 (3) 集計用紙に書かれた順位を基に、納得するまで話し合い、「グループとしての順位」を決める。 写真 保護者参観の様子	自分、友達そして保護者のものの見方、考え方を知らせるとともに自己理解を深めさせる。班は日頃から様々な形態をとり、その活動の目的に応じて、編成を変える。 (エクササイズの留意点) ・納得できるまで話し合う。 ・話し合いは勝ち負けではないことを理解させる。 ・多数決や平均値は用いさせない。 ・少数意見にも十分耳を傾ける。 ・保護者には職業人、地域社会人としての立場も含めて意見を述べてもらう。 (人間関係の形成に関する工夫：構成的グループ・エンカウンター)
実践への意欲化 5分	4 生徒と保護者との話し合い 保護者や友達の意見、考えを振り返り、それを踏まえて自分の考えをまとめる。 (シェアリングを行う。) 5 活動を振り返り感想を発表する。 ・学んだこと、考えたこと ・感じたこと、気付いたこと	保護者や友達の意見を取り入れることで、はじめの自分の意見が加除、修正されたり、もしくはもっと強まったりしていることに気付かせる。 保護者や友達とのかかわりの中で感じたことを学んだことを振り返らせる。

(構成的グループ・エンカウンターについては「研究紀要 83号」に掲載)
 ()はガイダンスの機能の充実を図るために行った活動の工夫
 <鹿児島大学教育学部附属中学校 丸田 義宏 教諭の実践を基に作成>

[参考文献]

文部省 『小、中学校学習指導要領解説 特別活動編』平成11年

森島昭伸編 『新中学校教育課程講座』ぎょうせい 平成12年

日本特別活動学会編 『キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社 平成12年

(教育経営研修室)